

平成18年度 現職教育研究計画

須賀川市立西袋第二小学校現職教育部

1 研究主題

**確かな学力をはぐくむ指導法の工夫
～学び合う楽しさを感じる算数科の指導～**

2 研究主題設定の理由

(1) これまでの研究から

本校では、平成16年度、それまで4年間積み重ねてきた総合的な学習の研究から、基礎・基本の確実な定着を図る意味から国語科の研究へと方向を転換し、「確かな学力をはぐくむ指導法の工夫」の研究に取り組み、一定の成果を上げた。そのため、昨年度は、「算数・数学パワーアッププラン」の実践に向け、算数科へと教科を移し基礎学力向上を目指した共同研究に取り組んだ。そこでは、基礎学力向上プランの学級化を図り、授業改善へとつなげ、指導力向上への一定の成果が得られた。しかしながら、研究内容が広範囲となり研究の視点が全体として十分に深まらなかったこと、教師主導の一斉授業からまだまだ抜け出せないという課題が出された。

そこで、今年度は、昨年度の課題から、自主的に学習する児童を目指し、児童が共に関わる中で学び合い、基礎的・基本的な内容をよく理解し確実に身に付ける学習指導のあり方に焦点を絞って研究をしていきたいと考えた。集団の学習の中で他者との関わり合いを大切に学び合う楽しさを感じる学習を構成していくことは、主体的に学習する児童を育成していくことにつながり、その指導あり方を研究し、教員としての指導力を高めていきたい。

(2) 児童の実態から

一人一人の児童は素直で、まじめに学習に取り組んでいる。しかし、難しい課題に、積極的に解決していこうとする児童は少数である。ふだんの生活でも、言われたことは行動できるが、自ら考えて行動する面では消極的な面が見られる。

話を聞くことに関して最後までしっかり聞くことができない児童が多く、授業においても、自分の思いや考えを進んで発表する児童と発表しない児童に偏りが見られる。そのため、学級全体で、共に意見を交換し合い、進んで関わり合いを持ちながら、考えを広げたり深めたりする学習の達成感が十分に得にくいものとなっている。

学力テストの結果を見ると、3・4の段階の児童が約8割であり、全体としては標準的な傾向にある。しかしながら、1・2の段階が2割を占め、5の段階は数パーセントと1割に満たしていない。このことから、基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける学習の指導法を、さらに、工夫し改善していく必要がある。

(3) 教育目標具現の視点から

本校の教育目標は「自ら学ぶ、豊かな人間性とじょうぶなからだをもった子ども」の育成である。

「なかよくできる子」
「からだをきたえる子」
「よく考える子」
「しんぼうづよい子」

が望ましい児童像である。中でも「よく考える子」については、目指す児童像を「進んで学習し、よく考えて発表する子」とし、「相手の話を真剣に聞き、自分の考えを持って話すことができる」児童を重点努力目標に掲げている。

共に学び合うことの楽しさを感じることでできる学習を創造していくことは、進んで自分の考えを発表したり、他者の考えを聞いたりしながら、他者と関わり合いを持ちながら積極的に学習することのできる児童を育てるものであり、教育目標の具現につながるものである。

(4) 教育の今日的な課題から

平成14年度からの新学習指導要領では、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」

を展開し、子ども達に学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることはもとより、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」をはぐくむことを基本的な視点としている。

「生きる力」をはぐくむためには、知識や技能に加え、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、問題を解決する資質や能力となる確かな学力を育成していくことが必要である。

3 主題についての基本的な考え方

- 人間が自立して生きていくためには、主体的に学び自ら考える力と、それを支える基礎・基本が不可欠である。

【確かな学力】を「知識や技能を中心とした能力的な面を大切にしながら、それに加えて学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力まで含めた力」と捉えた上で、

【はぐくむ】とは、「学んだ力を基にして子ども達が自ら積極的に学びに取り組み、『生きる力』（生活していくために必要な力）につながる真の学力を確実に身に付けて、自己実現を図っていくこと」とする。

- 算数科における確かな学力を、「単に知識や技能を身に付けるだけでなく、学び方や考え方を習得すること」と捉える。

【学び合う楽しさ】とは、新しい課題に出会い自力解決する喜びから、友達の多様な考え方を知り、その関わりの中で自他のよさを知る喜びを通して、算数の基礎的・基本的な内容がより深く理解できることで味わうことができるものと捉える。さらに、そこから、算数への関心・意欲・態度が高まっていくものと捉える。

【感じる】とは、体験や経験によって、自分自身で気づくことであると捉える。

4 本研究を具現するための視点

- (1) 基礎・基本の明確化
- (2) 学び合うの場の設定と工夫
- (3) 学習の振り返りの場の設定と工夫
- (4) 確かな定着を図るための工夫

5 研究仮説

学び合う場と学習の振り返りの場を設定し、児童一人一人が学び合う楽しさを感じることができる授業を展開すれば、主体的に学習し確かな学力をはぐくむ児童が育つだろう。

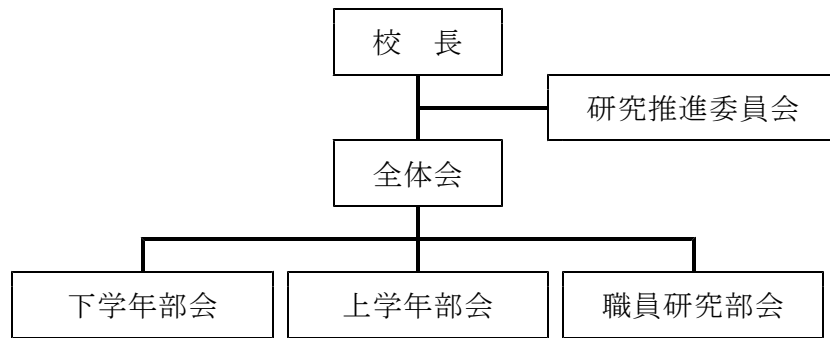
6 研究内容

- (1) **基礎・基本の明確化**
 - ・本単元での基礎と基本を明確にした単元の構成と工夫
 - ・本時での基礎・基本、及び、本時で活用する既習の基礎・基本を明確にした指導案の作成と工夫
- (2) **学び合うの場の設定と工夫**
 - ・課題提示の工夫
 - ・個に応じた自力解決の工夫
 - ・問題解決の話し合いの場の設定と工夫（学習形態の工夫）
- (3) **学習の振り返りの場の設定と工夫**
 - ・自己評価、相互評価の場の設定と工夫
 - ・学習のまとめの充実の工夫
- (4) **確かな定着を図るための工夫**
 - ・日常指導の工夫（チャレンジタイムの活用、家庭学習の工夫）
 - ・教室環境の充実と工夫
 - ・個別指導の工夫

7 研究方法

- 授業研究会の実施と累積
- 事前テスト、事後テストの実施及び考察
- 子どもの意識調査の実施
- 評価記録（自己評価・相互評価）の累積と分析

8 研究組織



《役割》

- 研究推進委員会
- 研究計画立案（*講師派遣申請）
 - 文献購入希望
 - 研究成果のまとめ
- （授業研究）
- 学習指導案の内容と表記の方法
 - 授業観察記録の方法
 - 学習指導法の改善と共通理解・実践のための連絡・調整
- （日常実践研究）
- 児童意識調査の実施と分析
 - 日常活動の推進
 - 環境整備の計画立案と整備
- 学年部会
- 教材の作成、学習過程、学習形態、評価の研究
 - 事前、事後研究会の運営
 - 授業観察の分担と依頼
 - 児童意識調査の実施と分析
 - 教室環境の研究・提案
- 職員研修部会
- 実技研修やレクリエーションの計画立案と運営

9 研究構想

